

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2017年7月号>

124号 2017.7.01 配信

蒸し暑い日が続いています。七夕飾りが雨に揺れています。梅雨明けが待ち遠しいですね。夏休みの計画は、もうお決まりですか。思い出に残る夏にしたいですね。

■同窓会だより

●学年幹事会 開催報告

6月17日（土）、2017年度学年幹事会を開催しました（新幹事含め141名参加）。はじめに副学長吉田昌志先生から学園の近況をお伺いし、続いて本学名誉教授の伊藤セツ先生から「今を これからを」悔いなく生きたい—昭和女子大学定年後も研究者として、市民として—と題してご講演いただきました。学年幹事の役割を確認し、意見交換会では卒業学科ごとにテーブルを囲み、情報交換を行いました。

●光葉同窓会奨学金授与式を7月14日（金）に行います。

■学園だより

昭和女子大学とテンプル大学ジャパンキャンパスが、共同でスーパーグローバルキャンパスを創出：日本の大学のグローバル化に強力なインパクト（2017年6月5日報道発表資料）

日米のキャンパスを同一敷地内に置くのは日本で初めてのことで、日本の大学のグローバル化の唯一の事例となります。昭和女子大学は TUJ と一緒に大学のグローバル化を一気に加速させ、大学教育の質の根本的な充実向上をめざし、次なるステップへと踏み出します。（大学HPより抜粋）

『2017年度ワーキングネットワーク秋祭り』のお知らせ
9月中旬に開催予定

『眠れる力を無理なく引き出す』

いま、仕事をしていない人、自分に何が向いているか悩んでいる人、
これから働きたいと思っている人、今のキャリアを活かして働きたい人に…
あなたの眠れる力を無理なく引き出すヒントをプレゼントします。

★開催日、詳しい内容はメルマガ号外でお知らせいたします！

■広げよう光の葉

杉田 恵理さん

2016年 生活機構研究科人間教育学専攻修了

私が昭和女子大学に初めて足を踏み入れたのは受験日でした。受験直前に、通っていた予備校の恩師から「小学校の先生になってみてはどうか」と薦められました。当時は、自分の将来に教員というものはなかったの、ひどく驚いたのを覚えています。ですが、大学・大学院とあわせて6年間、あのキャンパスで学んだことはとても多かったと思います。

大学では、自分が学びたい授業が多くあり、時間割を考えるのに苦戦した思い出があります。そこから自分は「学ぶこと」が嫌いではない、ということに気がきました。大学では自分が昔から好きな音楽について研究を深めました。研究の内容をなかなか決めることが出来ず、永岡都先生に多くのアドバイスをいただきました。自分が音楽を聞くことが好きなこともあり、『鑑賞教材としての「絶対音楽」―楽曲の分析と授業での展開方法―』を執筆しました。

大学卒業後は、「専修免許状」を取得したい思い、昭和女子大学大学院生活機構研究科人間教育学専攻へ進学を決めました。大学院でも引き続き、音楽鑑賞について研究を深めたいと思い、永岡先生のゼミに入りました。大学院で学んでいる間に縁あって、とある都内公立小学校にて講師として勤務することになり、低学年の音楽科の授業を担当しました。修士論文はそこでの授業実践を通し、「児童が音楽の何を聴いているのか」ということ研究することとなりました。修士論文は『小学校音楽科における鑑賞教育の再構築―低学年の音楽聴取の実態調査を通して―』と題し、児童が記入したワークシートから児童が音楽を聴くときはひとつの視点に限ったことではない、という結論に至りました。児童が記入したものを自分なりに分類し、項目ごとに分けたことは大変ではありましたが、自分が想像していなかった結果が出ると、「もっと研究してみたい」という興味にもつながりました。

現在は都内の公立小学校で常勤教員として勤務しています。音楽の授業だけでなく、すべての授業を考えていく中で、6年間昭和女子のキャンパスで学んだことが日々の支えになっています。また研究を進めていく中で気付いた児童の視点の多さは、授業内容を考えていく上でもとても役立っています。

今後も引き続き児童の可能性を見出しつつ、音楽を聴く力について、音楽鑑賞の授業の可能性を研究していきたいと思っています。

End